跡見学園中学校

算数

＜2026 年度入試の構成＞

【一般入試第 1 回・第 2 回、特待入試第 1 回・第 4 回】

1　計算問題…6 問
2　一行問題…8 問
3　大問…（1）（2）（3）
4　大問…（1）（2）（3）

【特待入試第 2 回（算数 1 科入試）】

（1）～（8）計算問題…8 問
（9）～（30）一行問題…22 問

応用問題や工夫を要する問題もありますが、基礎力が身についているかどうかを問う問題を多く出題しています。基礎力とは、具体的には、正確な計算力、文章題の意味を理解して適切な解答を導き出す力、図やグラフを使って自分の考えを整理する力です。合格を勝ち取るためのポイントは、計算練習を毎日することと、一行問題でよく出るパターンの問題を繰り返し練習することです。そして、最も大事なのは、答え合わせをていねいにして、間違った問題はどこで、何が原因で間違えてしまったのかを調べて、正しく解けるまで繰り返すことです。入試本番では、大問の後半まで粘って、得点を伸ばしましょう。同じパターン・分野の出題が続くので、複数回受験者は有利になります。大問3・4の（1）は基本的な問題です。（2）（3）は前の問題の途中経過や結果を利用して解くことがある問題になっています。

国語

【一般入試第 1 回・第 2 回、特待入試第 4 回】

小説や説明文を用いた長文問題をはじめ、敬語などの基本的な文法やことばに関する知識、ことわざや四字熟語に関する知識、筆順・部首などの漢字の知識、漢字の読み書きを出題します。基本的な読解力・表現力を問う問題です。

本番では時間配分を考え、できるところから解いていきましょう。問題文を正しく読み取って、何が問われているのかをつかみ、漢字はていねいに書きましょう。また、抜き出しの問題では誤字・脱字があれば減点になるので注意してください。記述問題には部分点があるので、最後まであきらめず、よく考えて解答を書きましょう。

受験に向けた学習のポイントは、漢字の練習では漢字の持つ意味、熟語の意味に気をつけて、知識を身につけておくことです。過去問題を時間内に解いて長文に慣れ、文章の流れをつかめるようにしておくことも大切です。また、文章から読み取ったことを書き表す力もつけておきましょう。

【特待入試第 1 回・第 2 回（国語 1 科入試）】

説明的文章 2 題、漢字、言語事項を出題します。文章の大問では 50～60 字程度の記述問題を出題し、読み取ったことをまとめる力を問います。漢字の同訓異字・同音異字には、ふだんから注意するようにしましょう。また、本や新聞を通じて、さまざまなジャンルの文章に触れておいてください。第 2 回（国語 1 科入試）は、第 1 回よりも記述の割合が増えます。

理科

物理（力・電気・磁石・熱・音・光）、化学（物質の状態・構成・変化）、生物（動物・植物）、地学（気象・天体・地質・環境）の 4 分野から均等に出題します。最初に一問一答形式の小問があり、基本的な問題が中心なので、問題集の「基本問題」を全分野まんべんなく解けるようにしておくことが大切です。選択問題・用語の記述問題が多いですが、作図問題や論述問題も含まれます。論述問題には自分自身の考えを問うものもありますので、日ごろからニュースなどを見て、時事問題などに対して自分の考え方を持つようにしてほしいと思います。

社会

基本問題を中心に、それぞれの分野（地理・歴史・公民）からバランスよく出題します。過去問を確認し、例年の傾向を参考にしてください。問題文を注意深く読み、誤りのないように解答することが大切です。漢字指定の用語は、漢字で書くこと。基礎・基本は時事問題を含めて徹底的に勉強し、過去問をよく解いておきましょう。各分野の傾向は下記のとおりです。

【地理分野】日本の都道府県や地形・気候などの自然地理の知識。政治・経済・文化などの分野でニュースに頻繁に登場する国に関する知識。地図や図表、日本や外国の都市の雨温図。

【歴史分野】重要な歴史上の出来事や人物名などの知識と、出来事の背景や影響を相互に関連づけて考える能力。

【公民分野】日本国憲法や国の政治の仕組み、国際社会などの知識。これらを基礎に、さらには時事問題も出題することがあるので、日ごろから日本や世界の出来事に興味・関心を持ちましょう。

理科・社会共通の留意点【一般入試第 1 回・第 2 回、特待入試第 4 回】

理科と社会のテストは、同時に計 50 分、各 50 点満点で実施します。どちらから解答しても構いません。時間配分は自由です。

江戸川女子中学校

算数

大問は 4 題で、小問は全部で 20 問前後となっています。四則計算問題から始まり、約数と倍数、演算記号、集合、割合（濃度・損益など）、速さと時間と道のり、場合の数、相当算、時間算、日暦算、図形の面積・体積など、さまざまな内容があります。また、論理的に考える能力があるかどうかを見るために、数の範囲と規則性、演算記号の応用、面積・体積の変化や行程など 2 量関係の問題（グラフもある）、図形の移動なども出題しています。基本問題をいかに取りこぼさないようにするかが合格への近道です。

国語

4 題の大問のうち 2 題は説明的文章と文学的文章の読解問題です。読み取りに関するものを軸として、要旨・段落・適語適文選択・文脈整序、語句や表現の文中での意味の説明、ことばのきまり、漢字・慣用表現といったような幅広い設問があります。一度読んだだけで的確に文章の内容を把握する努力を日ごろから続けることが必要です。

理科

大問は 4 題で、生物・地学・化学・物理の 4 分野より各 1 題を出題しています。どの分野についても、身近な現象と関連づけて理解する力を問う問題を取り上げています。基礎的な現象や法則を理解したうえで、さらに科学的な判断力が養えるように、項目ごとに関連した基礎問題を解くようにするとよいでしょう。基礎問題をきちんと解ける状況にしておけば合格点に十分達するはずです。

社会

大問は 4 題です。歴史は、日本史の大きな流れとその時代に起きた重要な出来事から出題しているので、各時代の基本的な事項をつかんでおく必要があります。地理は、日本地図や統計資料を中心に各地の特色について出題しているので、日ごろから地図や統計資料に親しんでおきましょう。公民は、その年に起きた時事問題を中心に出題しているので、新聞・ニュースに接しておく必要があります。

英語（基礎学力型）

英検®4 級と同程度の難度の問題を、語彙、文法、リーディング、リスニングの分野にわたって出題します。英検®の過去問を解いて、時間配分にも慣れておきましょう（全問選択式）。

英語（特化型）

英検®2 級と同程度の難度で、語彙、文法、リーディング、ライティング、リスニングの分野にわたって出題します（選択式・記述式）。本校ホームページにサンプル問題を掲載しているので、それを参考に対策を行ってください。また、英語と日本語での面接も行います。

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

鷗友学園女子中学校

算数

前半は小問集合（採点対象は解答のみ)、後半は記述式（途中過程、部分点あり）で、小問集合と記述式の割合はおよそ１：１の予定です。
記述式では解答用紙に考え方や途中式を書くので、考え方の筋道を整理して書く練習をしましょう。筋道を整理するためには、問題文やグラフ・表を正しく読み取り、分析する力も必要となります。本校では、比や割合を用いる問題を必ず出題しています。文章題だけではなく、図形の問題にも比を使うので、よく勉強しておきましょう。また、必ずしも後半の問題の難度が高いというわけではありません。時間配分を考えて最後まで取り組みましょう。

国語

文学的文章の読解、説明的文章の読解、漢字（5 問。うち 1 問は四字熟語問題）の 3 題です。全体の文章量は 8000 字前後で例年と変わりません。物語文では登場人物の心情や主題の理解を求める出題を、説明文では筆者の論理の筋道をきちんと追い、文章の構造と筆者の主張を正しく読み取ることを求める出題をします。45 分という試験時間で、受験生が考えて解答できる量を考慮しながら設問数や記述量を設定しています。出題傾向はこれまでどおりなので、過去問を練習すれば対応できます。解答する際には、正しい書きことばで、一文を完結させましょう。漢字は「とめ・はね・はらい」をきちんと意識して書きましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランスよく出題します。難度や傾向は今までと変わりません。基本的な知識だけでなく、その場で考えて解く力を見る問題もあります。問題文をしっかり読み、実験データや情報をていねいに整理していくことが大切です。こういった問題の練習には、過去問研究が非常に有効です。また、記述式問題や、作図を伴う問題、式を書かせる計算問題では、可能なかぎり途中点・部分点をつけています。考えたことをきちんと整理して伝える力も身につけていきましょう。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から、例年どおりの配点で出題します。用語の説明や自分の考えを述べる記述問題には部分点がありますので、学んできた知識や考えを適切に表現できるように練習してください。初めて見る資料やデータを読み解く問題が出題される場合もあります。練習の際から、それらの数値などが示す意味をていねいに考えるようにしましょう。時事問題は、毎年必ず出題されます。日ごろからニュースを見て、世の中の動きをつかんでおくことが大切です。

大妻中学校

算数

全範囲から偏りなく出題することを考えています。そのため、正確かつ迅速に計算する力が必要です。日ごろから計算力を意識して練習しましょう。また、第1回から第3回までの午前入試では、思考過程を確認するため、記述式の問題も多く出題されます。途中式の書き方や、考え方をわかりやすく説明する力も身につけられるよう、練習を重ねてください。特殊算については、典型的な問題を確実に解けるようにしておきましょう。また、問題文をよく読み、思い込みで解き進めることのないよう、十分に注意してください。

国語

論理的な理解を求める文章と文学的な文章を、バランスを考えて出題します。文章量は多く、豊富な語彙力も必要なので、日ごろから幅広い読書を心がけてください。大人向けのものも含めて、多くの文章に触れて、考え方や興味の幅を広げておくことが大切です。韻文（詩・俳句・短歌）は、ほぼ毎年出題しているので、基本的な知識を身につけておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。実験・観察を題材とした問題の対策として、小学校の授業で行われる実験などには積極的に参加しましょう。新聞やニュースの理科的な話題にも関心を持つように心がけましょう。計算問題や記述の問題も必ず出題します。基本的な事項については覚えておく必要がありますが、すべてを暗記に頼るのではなく、問題文で与えられた情報を組み立てて考えることで答えが得られるような問題になっています。幅広い学習をして入試に臨んでください。

社会

地理は日ごろから地図帳を使って、「どこに何があるか」を把握しておくことが大切です。グラフから「なぜこういった現象が起こるのか」を説明できるよう、考え方をまとめておくとよいでしょう。歴史はまず重要語句の意味をしっかりと理解してください。また、資料を読み取る力を試すこともあります。「各時代のいつごろ、どんなことが起こったか」を、順を追って説明できるように工夫して学習してください。公民は政治や経済の仕組みを中心に、時事問題も出題します。用語や地名は、漢字で正確に書けるようにしておきましょう。

大妻多摩中学校

算数

午前入試は試験時間が 50 分で、計算問題 3 問、小問 3 問、大問 4 題という構成です。問題冊子に解答欄があり、途中式や考え方も余白に書き込む形になっています。大問については答えが間違っていても、途中式や考え方が正しければ部分点を与える場合があります。内容については、計算力とともに、地道な作業能力があるかどうかを見ることを重視して作問しています。規則性（数列）、場合の数（数え上げ）、約束記号を使った問題、図形の求積（面積や体積を求める問題）、動点の問題をよく出題しています。また、本校特有の分野として、辺の比が 3：4：5 の直角三角形を利用する問題もあります。過去問を解いて出題傾向に慣れておくとともに、こつこつとした作業を面倒くさがらずに着実に行う学習態度を身につけることが大切です。

午後入試は試験時間が 50 分で、計算問題 2 問、小問 8 問、大問 3 題という構成です。最終的な解答のみを解答用紙に記入しますが、最後の大問は途中式も記入する形式になっています（部分点あり）。内容は特殊算などの問題が多いです。辺の比が 3：4：5 の直角三角形の知識を必要とする問題は出しません。典型的な問題を中心に、正解にたどり着けるように学習を積み重ねておいてください。

国語

試験時間は 50 分です。随筆・小説などの文学的文章、説明文・論説文などの説明的文章の 2 題と、それに加えて、漢字の書き取り、一般的な語句の知識を問う問題を出題します（100 点満点中 15 点以内）。漢字の書き取りは、その年に話題になった語句や、日常生活でよく用いる語句を中心に出題しています。詩・短歌・俳句などは単独では出題しません。読書の習慣を身につけ、文章をしっかり読みこなせるようにしておきましょう。新聞などの時事的な文章にも慣れておくとよいでしょう。なお、午後入試の文章は、午前入試よりやや長めで、問題の難度も多少上がります。

記述問題では、本文を読解して理由や内容などについて記述するタイプの問題のほかに、本文の内容について自分の意見を主張するタイプの問題を出題することもあります。自分の意見を書くタイプの問題では、論理立てて自分の考えを主張することが大切です。どちらのタイプの問題なのかをしっかりと見極めて、指定字数の 8 割は記述するように心がけてください。

理科

試験時間は 40 分で、大問 4 題、各 15 点で計 60 点満点です。出題傾向に大きな変更があります。理科内の分野融合問題の取り扱いをやめて、中学受験問題集でよく見かけるような典型的な問題で、理科的なものの考え方や観察力などがあるかをはかります。各回で分野が偏らないよう、物理・化学・生物・地学の 4 分野を各大問とします。小学校理科で習った内容をしっかり復習することをお勧めします。出題形式としては選択問題のほかに、語句や計算結果などを書く問題や記述問題もあります。過去問だけでなく、標準レベルの理科中学受験問題集などを利用して、問題文の内容を正しく読み取り、そこに書いてある

内容とすでに習っている知識を活用して答えられるようにする練習を繰り返しておくことをお勧めします。

社会

試験時間は 40 分で、60 点満点です。出題傾向に大きな変更はなく、難度は基本・標準レベルを中心に考えていますが、配点が若干変わります。地理・歴史の配点がそれぞれ 25 点、合計 50 点、公民の配点が 10 点となります。地理・歴史・公民のどの分野でも、教科書レベルを中心とした基本的な用語をていねいに学習することが重要でしょう。また、教科書や地図帳などに掲載されているようなグラフ・資料の読み取りを絡めた問題も出題します。与えられたデータをていねいに分析し、考える習慣をつけておきましょう。地名や人名などの用語は、漢字でていねいに書けるよう練習しておいてください。毎年、時事問題も出題しているので、新聞やテレビなどのニュースにも注目して、関心を持っておきましょう。与えられた条件に沿って、理由や内容などを説明する記述式の問題もあります。基礎・基本の問題を早めに解答し、慌てずに済むように時間を多く残して、じっくり考えながら記述式問題に取り組むとよいでしょう。ここ 2〜3 年分の過去問を解いて、傾向に慣れておくようにしてください。過去問への取り組みが最大の対策となるはずです。得た知識をきちんと「書く」ことができるところまで、勉強を完成させられるかどうかが大切です。「知っている」から「わかっている（意味を理解する）」にして、最終的に「書く」ことができるレベルにまで達するために、とにかく反復して学習しましょう。ここ数年は、「あなたはどう考えますか」という形式の問題も出題しています。当事者意識を持って学習する習慣をつけるよう心がけてください。

学習院女子中等科

算数

計算力・論理的思考力・図形に対する洞察力・数学的直観力と、それらを的確に表現する力を見ます。採点に際しては、途中の考え方や式も重視します。ふだんから、「途中の式や計算を必ず書く」「表や図を用いてわかりやすく表現する」「三角定規・コンパスを用いて図形をていねいに描く」といった習慣をつけておきましょう。正解でなくても、考え方や式が正しければ加点します。逆に、答えが合っていても、考え方に誤りがある場合は評価できません。

国語

文章の読解力・表現力を試すため、解答は記述式となっています。問題文の流れをつかみ、なぜそのような文章表現をしているのかをよく考え、答えるときは要点を過不足なくまとめることが大切です。「ふだんの生活で、よりふさわしい表現を心がける」「いろいろな文章に接する時間をこまめに取る」「漢字の読み書き、語句の意味などを常に辞典で確かめる」といった基礎学力づくりを最後まで心がけてください。

理科

日常の場で出会った現象に、「何だろう？」「どうしてだろう？」と考え、短い文章で表現することを望んでいます。教科書をよく読み、授業をしっかり受けてくることが必要です。与えられた条件をもとに考える問題では、小学校で習う範囲内でどのように考えるかを評価しています。また、説明を求める問題では、「誰が」「何が」といった主語をはっきりと示し、きちんとした文章を書く習慣をつけてください。

社会

例年、基本的な事項を問う問題を多く出題しています。人名・地名・年号を単に暗記するだけでなく、「なぜ？」を常に意識することが大切です。事典や地図帳を開いてみることで疑問が解けることもあります。時事問題もよく出題するので、日ごろからニュースや新聞に親しんでおきましょう。家族で交わす会話はとりわけ深く心に残ります。日常生活そのものが社会の最も効率のよい学習の場です。

吉祥女子中学校

算数

第 1 回・第 2 回ともに同じ構成で、大問は 6 題です。1 では、計算問題を 1 題と 1 行問題を 4 題出題します。2 ～ 6 は応用問題です。自分で考え、自分で解決する力を持っているかどうかを確認する目的で出題しています。(1) や (2) などの前半の設問は、(3) など後半の設問を解くための誘導やヒントになっています。前半の一つひとつの設問の意図をしっかりと理解し、後半の設問に利用できるかどうかが大きな鍵となっています。

国語

大問は文学的文章が 1 題と説明的文章が 1 題の合計 2 題、加えて漢字の独立問題（例年 6 題程度）を出題しています。出題の主な狙いは以下の 4 点です。①登場人物の心情を的確に読み取ることができるか。また、場面や文章の要旨について的確に読み取ることができるか。②理解したことを的確にまとめたり、本文の内容を自分の身の回りのことに置き換えて考え、表現したりできるか。③漢字・熟語の読みと意味を正しく理解し、使うことができるか。④ことばのきまりや使い方を正しく理解しているか。知識問題から読解力や表現力、そして思考力を問う問題まで、いろいろな問題をバランスよく出題するよう心がけています。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から 1 題ずつの大問 4 題で構成されています。「自然現象に関心があるか」「実験結果を表やグラフに整理できるか」「表やグラフを読み取り、規則性や法則性を見いだせるか」「基本的な知識や計算力が身についているか」を問います。身近な自然現象を題材に出題することもありますので、ニュースなどで取り上げられる自然科学に関する事柄にも日ごろから目を向け、仕組みや理由を考えたり調べたりするとよいでしょう。

社会

歴史・地理・公民の各分野から 1 題ずつの大問 3 題の構成で、出題数は学習状況を考慮して、歴史と地理の分野がやや多くなっています。基本的知識の定着度を問う出題が中心ですが、それぞれの事象の相互の関連性やその背景についての理解を問う問題、思考力や資料の分析力を問う問題、時事問題もあります。まずはしっかりと基本的な知識を身につけることが大切ですが、地図・グラフなどの資料を常に利用する、ふだんから新聞などでニュースを確認して基礎的知識と関連させる、といった対策も必要です。

共立女子中学校

算数
配点 6 点の小問約 6 問と、配点 10～20 点の大問 4～5 題が目安で、全分野から出題します。図形の大問を出題しています。

国語
漢字の読み書き、語句問題、韻文（詩など）、軟らかい文章、硬い文章の読解を出題します。選択式の問題が中心ですが、40 字程度の記述も数問出題しています。

理科
全分野からまんべんなく出題します。基礎的事項の積み重ねを問う問題が中心ですが、実験・観察に関する問題や、計算問題もあります。

社会
全分野から出題し、漢字指定、説明記述、図表の読み取り問題もあります。基礎を大切にし、苦手分野をつくらないことが大切です。

共立女子第二中学校

算数

大問は5題で、大問1の小問集合は8問です。基礎力を確認し、ほかの大問で応用力・表現力を見ます。記述式問題は3問（小問集合レベル2問、規則性など応用レベル1問）出題され、答えを求めるだけではなく、どのように考えたのか、自分のことばや計算式、図や表などを用いて表現する力を問います。出題傾向はこれまでと変わりません。中学校の数学につなげていけるように、解き方を理解しながら演習してみてください。

国語

大問は3題です。論理的文章（40点）、文学的文章（40点）、ことばに関する問題（20点）という形式は、4回の入試とも共通です。全体の時間配分に気をつけましょう。文章読解問題では、記号選択と記述をバランスよく出題します。ことばに関する問題では、漢字の読み（4点）、書き取り（4点）をすべての入試で出題し、そのほか類義語・四字熟語・ことわざ・慣用句などから毎回3種類の問題を出題します。ことばに関する問題を得点源にできるよう、しっかりと練習しておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題します。分野ごとに整理し、偏りなく学習しておきましょう。特に、実験・観察などの思考を伴う問題は毎年出題しています。また、理科に関するニュースにも目を通しておくとよいでしょう。日ごろの授業を大切にし、主体的に取り組み、みずから問いを立てる習慣を身につけておきましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野のバランスを図り、基礎を重視して出題します。まずは基本の語句をしっかり覚えましょう。グラフや資料を読み取り、自分のことばで説明するタイプの問題も、各分野で数問ずつ出題されます。空欄にせず、考えて書く練習をしておきましょう。

京華女子中学校

算数

1は計算問題 4 問、2は一行問題 7 問程度、3～5はそれぞれ小問 3 問程度となっています。一行問題は、仕事算・割合・面積・体積など各分野からまんべんなく出題します。3～5の各大問には 1 問ずつ記述式の問題がありますが、その説明には、式・図・文章のどれを使っても構いません。

国語

漢字の読み書きについては、読みは小学 6 年生までに、書き取りは小学 5 年生までに習ったものから出題します。文章題は、説明文・随筆から 1 題または 2 題で、文章整序問題、記述式の問題、言語活動に関する問題は必ずあります。このうち言語活動に関する問題では、問題文に関係のある文章を読んで記述式で解答するものや、会話文や報告書の作成を求めるものなどを出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から必ず出題します。物理と化学では計算問題も出題します。また、記述問題はどの分野からも出題されることがあります。基本問題を中心に学習し、あわせて自分のことばで説明する練習もしておきましょう。

社会

大問は 2 題で、1 題 25 点となります。ある特定のテーマに沿った形で、地理・歴史・政治のすべての分野から出題します。形式は記号選択式・短答記述式・文章論述式で、思考力・判断力なども問います。地理分野では教科書や参考書の重要語句を説明できるようにすること、歴史分野では古代から現代までの人物・事件名を整理すること、政治分野では政治や国際関係、時事問題についてしっかり学習することを心がけてください。

適性検査Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ型

来年 2 月 1 日の適性検査型入試は、都立白鷗高等学校附属中学校を徹底研究した問題を出題します。Ⅰ型とⅡ型は共通問題なので、都立の両国高等学校附属中学校、大泉高等学校附属中学校、富士高等学校附属中学校の対策にも有効です。

また、本校の入試は都立白鷗高等学校附属中学校と同一時間割で実施し、平均点と正答率も発表します。ですから、本番に向けた良い準備ができます。検定料も 1 万 2000 円と受けやすくなっています。都立白鷗高等学校附属中学校などの志望校の過去問演習を通じて、出題傾向をつかむことが合格への近道です。出題傾向は 11 月に実施する入試問題セミナーでさらに詳しく把握することができます。本校の入試問題セミナーと適性検査型入試の受験を経て、2 月 3 日の合格を勝ち取ってください。

恵泉女学園中学校

算数

1は計算問題3問、2は小問集合5問程度、3～5は大問です。幅広い範囲からの出題を心がけています。2025年度の入試は、すべての回で答えのみを書く形式です。途中式を書く問題はありませんが、大問では段階を踏んで答えられるような小問設定をしています。また大問では、前半の問いが後半の問いのヒントになっている場合があります。
受験生に問いたい力は昨年度までと変わりません。物事を順序立てて考え、粘り強く取り組む力を求めています。答えを出すだけではなく、「なぜそうなるのか」を日ごろから考えて学習に取り組みましょう。

国語

物語文や説明文などの長文を必ず出題します。記述式の問題は、文章の流れを読み取り、答えるときはことばを省略せず、一つひとつの要素をていねいに説明しましょう。部分点も与えています。誤字は減点します。記号で答える問題や抜き出し問題などもあり、さまざまな問い方をします。漢字は小学校で学習した範囲から出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。基本的な自然現象をしっかり理解して、用語の意味を正確に把握しておくことが大切です。説明文をしっかりと理解し、計算やグラフの読み取りを必要とする問題も出題します。

社会

地理・歴史・公民すべての分野から、基本的な問題を中心に出題します。歴史上の事柄を並べ替える問題、地図を使った問題、時事問題、グラフや表を読み取る問題などです。論述問題も出題しているので、暗記だけでなく、「なぜそうなるのか」を自分のことばで表現する練習にも取り組んでほしいと思います。

光塩女子学院中等科

算数

まずは確実な計算力が必要です。計算の法則を確認しながら、毎日数題ずつ練習しましょう。問題文から必要な事柄を整理するために、ポイントとなるところに線を引く、図に表すことで式が立てやすくなります。定規やコンパスをふだんの学習から使うことも大切です。説明を求められたら、何を求めているのかがわかるような書き方を心がけてください。過去問題を見て、どの程度、式や説明を書けばよいのかを参考にするとよいでしょう。算数1科型入試については、手早く答えが出せるように計算の工夫も意識してみましょう。

国語

たくさんの文章に触れ、さまざまな文章を読み慣れておきましょう。漢字や語彙など、読解の基本となる力をしっかり固めたうえで、筆者の言いたいことをとらえるように心がけてください。記述については、筆者の言っていることを書くのか、自分の意見を書くのか、問題の指示をしっかり読んでそれに従いましょう。自分の意見の場合は、存分に思いのたけを書いてください。限られた時間で文章を読み、ポイントをつかむ練習をしておくと効果的です。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野について、基本的な知識を身につけるとともに、実験結果をグラフで表し、関係について正しく分析する練習をしましょう。身の回りのことに関心を持ち、なぜそうなるのかを考え、自分のことばや図で説明しながら学習を進め、理解を深めてください。指示のある問題については、式・計算・考え方などを書き、数値には単位をつけて答えましょう。最後まで粘り強く問題と向き合ってください。

社会

例年、出題形式は変わらないので、過去問を解くことをお勧めします。ふだん接する人との会話や大きな出来事の報道に関心を払うとよいでしょう。習った漢字や言い回しを常に使って正しく表現できるよう努めてください。時間は30分です。過去問を解く際は計ってみましょう。解答は出題内容をよく確かめながら記入してください。

総合型

「初めて目にした問題（文章・図表など）について、今までに学習した小学校レベルの基礎知識を用いて、自分の頭を使って読み解き、きちんと思考して論理的に表現する力」を評価します。テーマに関する文章を読み進めながら、語彙や計算などの基礎力とともに、理科的な視点、社会的な思考力、国語的な読解力・表現力などを総合的に問う形式です。2027年度より、「総合型」では国語基礎・算数基礎の試験は行わず、「総合」の試験のみとなります。

晃華学園中学校

算数

中学入試問題として基本的なものが中心です。図形では、長さ・面積・体積・角度を求める問題や、空間認知の能力を試す問題などを、数量では、規則性、場合の数の問題や、比例といった関数の問題などを出題します。解答は、今年度は答えのみを記入する形式です。解答方法は、小学校の既修範囲に準じます。試験時間と配点は、前年度と同様です。

国語

文章問題を 2 題（文学的文章・説明的文章）と、漢字の書き取り問題を出題します。設問内容は、「文章の理解を問う問題」と「語句の理解を問う問題」です。前者では、主題・要旨の把握、文脈の理解、場面や情景の理解、登場人物の心情の理解などを問います。後者では、ことばの意味や性質、はたらきなどを問います。設問形式は、選択・抜き出し・記述などです。抜き出し問題で誤字や脱字がある場合は、減点対象となります。また、記述問題については部分点を設けていますが、指定字数を大幅に下回っている場合は減点対象です。漢字の書き取りは、原則として音訓ともに小学校で学ぶ範囲とします。文章問題・書き取り問題のいずれについても、書き方が乱雑なものは減点対象となります。試験時間と配点は、第 1 回と第 3 回が 50 分・100 点で、第 2 回が 40 分・80 点です。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。各分野とも、①小学校課程における基礎知識およびその応用力が身についているか、②実験・観察・観測などから論理的に考察する力があるか、③自然科学に対する興味を持っているか、身のまわりの自然現象への関心や観察力があるか、の 3 点を重視しています。記述式問題の場合、考え方や作図に部分点を設けています。解答に漢字の間違いがあった場合は減点対象になります。また、「小数第 1 位まで」と指定されているのに、分数で解答すると減点対象になります。「光合成」「物質」「密度」「圧力」「気圧」など、小学校では本来扱われない用語については、解説を加えると問題文がかえって複雑になってしまうので、解説を付けずにそのまま使う可能性があります。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。基本的な地名や人名は漢字で書いてください。記述式問題の場合、部分点を設けています。基本的な地名や人名を答える問題で、漢字の間違いや仮名書きは 0 点とします。記述式問題のなかに出てくる基本的な地名や人名についての漢字の間違いや仮名書きも、減点対象となります。

※①ホームページ「受験生の方へ」→「入試過去問」に、過去 3 年分の「問題・解答用紙・解答例・ミニ解説」を掲載しています。
※②問題は B5 サイズ（冊子）、解答用紙は B4 サイズです。

香蘭女学校中等科

算数

計算問題、図形・割合についての問題は必ず出題します。[1]は、計算力や整理して考える力を試す小問 14 問です。[2]・[3]・[4]は代数・幾何分野の応用問題で、粘り強い思考力があるかを問います。全体の問題数は 2 回とも例年と同じです。

国語

物語的な文章と説明的な文章から各 1 題を出題します。文学史などの知識は問いません。意味段落ごとに、筆者の言いたいことや登場人物の心情をまとめながら読む練習をしてください。

理科

4 分野からまんべんなく出題します。基礎的な内容を覚えるだけでなく、教科書や参考書・資料集をよく見ながら、「なぜこうなるのか」と考えながら問題を解くようにしましょう。実験や観察に基づく図やグラフを読み取る練習も大切です。

社会

大問 2 題構成で、地理・歴史・公民の各分野からまんべんなく出題します。資料から情報を読み取り思考する問題や、時事問題も取り上げています。

品川女子学院中等部

算数

〈作問のコンセプト〉

偏りなく幅広い分野からの出題を心がけています。中学生になってから学ぶ「数学」では、一つのつまずきが必ず先のどこかで影響します。すべての分野を好き嫌いなく学んでください。記述式の問題も出題しますが、本校では、入学後もさまざまな場面で自分の意見を伝える能力が要求されます。このため、「自分はこう考えた」ということをわかりやすく相手に伝えられる人に入学してもらいたいと考えています。

〈アドバイス〉

●4 科入試では、計算問題として、四則演算、還元算、分配法則など工夫した計算、虫食い算、覆面残などを出題します。平方数を覚えておくと説きやすい問題を出題する方針です。

●小問集合はさまざまな分野から出題します。単位の計算、数の性質、数列、集合と場合の数、約束記号、濃度、面積、過不足算、差集め算、旅人算、通過算、倍数算などです。幅広く勉強し、苦手分野をつくらないようにしましょう。

●図形は、角度・長さ・面積・体積を求めるものが多く、立体図形の切断、平面図形の回転、展開図、点の移動などと絡めて出題することもあります。

●記述問題は解き方の流れを示し、ていねいに書いてください。受験生の皆さんが考えた過程を、好意的に読み取りながら採点します。部分点を与えることがあるので、わかる範囲で伝える努力をしてください。

●算数 1 科目入試では、限られた時間で的確に問題を処理する力を求めています。答えのみを問う問題を 25 題前後出題する予定です。時間配分に気をつけて、できる問題から解いていきましょう。

●データの活用（平均値・中央値・最頻値）に関する問題を検討します。

国語

〈作問のコンセプト〉

国語科では、語句や文法に関する知識や、読解力といった基礎学力をもとに、より難度の高い文章を理解する力を養いたいと考えています。学年・学期ごとにテーマを設けたシラバスがあり、授業では中学 1 年生のときから、現代社会を題材とした文章について、さまざまな切り口から学びます。また、社会に出てから他者とのかかわりにおいて必要とされる力を総合的な国語力ととらえ、言語感覚や文学的感性など、数値には表れない力を伸ばすことも重視した指導を行っていきます。入試においても、社会に目を向け、現代社会で問題となっているテーマに興味を持ち、より良い人間関係を築けるような生徒を期待して文章を選び、作問しています。

〈アドバイス〉

●例年、文章の長さは同じくらいになるようにしていますが、多少の長短はあります。

●物語文では、最近の作家の作品を取り上げます。テーマは、友だち・きょうだい・家族との関係、学校での人間関係などに関するものが中心です。記述問題は、心情や状況を説

明するものが多くなっています。
●説明文のテーマは、現代社会で話題・問題になっているようなこと、自然環境・動植物・コミュニケーション・文明・社会などです。記述問題では、論旨の展開を押さえた説明が求められます。
●漢字はていねいな字で書きましょう。一般的な中学受験用の問題集で繰り返し練習してください。知識問題の対策は、塾などの中学受験用のテキストで十分です。文学史は出題していません。

理科

〈作問のコンセプト〉

本校の理科では、科学について学問的に追究しようとする深い思考力を養いたいと考えています。入学後の授業では、実験・観察で科学的な感覚を身につけ、レポート作成やグループワークで考察力と伝える力を養うとともに、視聴覚教材などで理科に親しみ、「知る喜び」を味わうことを目標にしています。したがって、入試問題は、このような理科的な興味・関心を持つ姿勢につながることを意識して作問しています。

〈アドバイス〉

●実験や身近な疑問に関する問題が多く、考察力や思考力を試すものもあります。
●計算・記述・作図問題もあります。
●問題には、図・グラフ・表も使用しています。
●記述問題で説明する際は、理科の用語を用いてください。記述に漢字の間違いがあれば減点します。
●解答欄に単位が印刷されている場合は、要求された単位にして答えてください。
●計算問題で差がつくことが多くなっています。

社会

〈作問のコンセプト〉

社会の授業では6年間を通して、正確な知識をもとにして、筋道立てて物事を考える力を養いたいと考えています。具体的には、日本や世界の出来事・文化や、各地域の特徴を積極的に学ぶ姿勢と、問題点を指摘したうえで、みずからの考えを述べる力をつけていきます。したがって、地理では日本の国土の特徴などの基礎知識を持っていることが必要で、歴史ではその時代ごとの出来事に加え、現在に至るまでの大きな流れを認識しておく必要があります。公民分野では、時事問題を基礎知識と関連づけて考える力も求められます。

〈アドバイス〉

●基本的な知識や理解力が重視されています。
●形式は記号選択と適語記入が中心で、漢字指定で答える問題もあります。
●地図・写真・資料・グラフ・地形図・雨温図・統計資料を用いた出題もあります。
●記述問題が数問あります。
●構成・傾向・難度は、例年どおりにする方針です。
●受験参考書や塾のテキストも参考にして作問しています。
●「間違っているもの」を選ぶ選択問題が例年出題されるので、気をつけてください。

●用語は正しく書きましょう。漢字指定の問題もあります。
●時事問題については、用語をずばり問う場合と、そこから発展させて問う場合とがあります。地理・歴史に関連した問題になる場合もあります。
●記述で説明する問題には、複数の知識を組み合わせて表現する必要があるものもあります。また、キーワードが必要なことも多くあります。誤字・脱字は減点します。

十文字中学校

算数

出題形式は各回とも共通で、解答のみを書く問題と、解答用紙の一部に「考え方や式」を書く欄を設け、部分点がもらえる問題とがあります。ほとんどが基本的な問題です。過去の入試問題には必ずチャレンジし、出題形式に慣れておくとよいでしょう。

国語

大問１題ないし２題を、文学的文章と説明的文章のバランスを考えて出題します。登場人物の心情や、内容の要点・要旨を問う問題が中心です。そのなかで、ことばの意味やことわざ、慣用句などの知識問題も必ず出題します。漢字の読み書きなど基本的な力を見る問題も必ずあるので、よく練習しておくとよいでしょう。

理科

実験・観察をもとにした出題が中心になります。細かい知識を覚えているかどうかだけではなく、身近な現象と結びつけられているか、また、生活体験や学校の授業で身につけたことを自分のものにしているか、といった観点から出題しています。これまでに得た体験や学んだ知識などを組み合わせて考え、表現する（記述する）練習をしてみてください。

社会

地理は、地方（都道府県）ごとに地誌的内容を出題することが多いので、それぞれの地域の特色を理解してください。歴史は教科書を中心としながらも、テーマ史を含めた学習が必要です。人物を中心に各時代を偏りなく学んでください。公民は、教科書だけでなく新聞や参考書も利用して、国会の情勢、周辺諸国との関係、時事問題についても学習しておきましょう。地図・図表・写真などにも目を通しておくと理解が深まります。また、過去の入試問題に挑戦をして、出題傾向に慣れておきましょう。

頌栄女子学院中学校

算数

①正確な計算力が身についていること、②速さ・割合・濃度などの考え方が身についていること、③平面図形・立体図形をイメージする力が身についていること、④問題文を的確に読み取る力が身についていること、以上の 4 点を特に重視した出題を心がけています。問題を各種パターンに分類して、その解法を覚えて解くのではなく、あくまで論理的思考を徹底し、それを相手にわかりやすく説明する力を身につけてほしいと思います。

国語

長文を 1 題あるいは 2 題出題します。説明的文章では、正確な文法と厳密な論理に基づいて、筆者の意図を的確に把握する客観的読解力を問います。文学的文章では、それまでの受験生の生活体験に支えられた鑑賞力、ひいては想像力・創造力・表現力などを問うことを主な狙いとします。漢字の書き取り、ことわざ・慣用句などの語彙力も重視しています。速読・速解の日常的な訓練も必要と思われます。

理科

4 分野から各 1 題、計 4 題を出題します。単なる知識の有無ではなく、科学的な思考力・計算力・表現力を問うことを狙いとします。このうち科学的な思考力とは、与えられたデータや条件をもとに、類推したり、まとめたりしていく力のことです。したがって、表やグラフの取り扱いには十分に慣れておく必要があります。また、記述式の問題も数多く取り入れています。さらには、最近の科学に関するニュースなどにも、日ごろから十分関心を持つように心がけてほしいと思います。

社会

時事問題を切り口とした総合的な問題や、地理・歴史・公民を融合した問題を出題し、各設問では、基本的知識をもとにした思考力や記述力を見ます。図表や資料などから必要な情報を読み取る能力を特に重視します。基本的な地名・人名や、そのほかの社会科用語については、必ず漢字を使って正しく書くよう、日ごろから心がけてください。

昭和女子大学附属昭和中学校

算数

例年と同じ形式・傾向で出題します。計算問題や 1 行問題、基本的な四則計算や逆算、公式や知識の利用問題が中心です。文章題では、速さや割合、図形（平面図形、空間図形）のほかに、自分の考えを書く問題や会話文形式のような読解問題を出題します。解答用紙のスペースを広く取っているので、考えた過程が書いてあれば、途中点を与えています。

国語

本校の問題は、読解力・表現力と、それらを支える豊かな語彙力の有無を問うために、長文読解問題 2 題、百字作文、語句問題という構成をとっています。そのため、日ごろから読書を通して文章を正確に読む訓練や、そこで得た語彙を使って文章を書く練習が不可欠です。テクニックとしては、読解問題や百字作文に集中するために、語句問題は先に解くこと。また、百字作文では、意見と根拠をはっきりと書き、説得力のある文章にすることを心がけましょう。

理科

「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野から出題します。本科コース、グローバルコースは大問 4 題構成で、大問 1 は小問集合となっています。スーパーサイエンスコースは大問 6 題構成で、大問 1 から大問 4 までは本科コース、グローバルコースと共通の問題を含みつつ、より発展的な内容まで問います。
どのコースの受験生も、基本的なことば・計算の問題はスムーズに解けるように繰り返し練習しておくとよいでしょう。また、見たことのない問題でも慌てず、あきらめずに、問題文をていねいに読み、状況の理解に努め、自分の考えを文章や式で表す練習をしておくとよいでしょう。

社会

一つのテーマのもとで地理・歴史・公民・時事などを多面的に問う総合問題と、地理・歴史・公民の基本的な知識を問う小問集合の二つで構成しています。基礎的な知識はもちろん、それをベースにした思考力を問う問題、図表やグラフ、統計、地図などさまざまな形式の資料を使った問題が出題されます。資料から必要な情報を読み取る練習をしておきましょう。基礎面では都道府県の特徴や特産物・産業はしっかりと確認しておき、歴史の基本的な用語は語句だけでなく意味や背景、結果なども含めて確認しておくようにしましょう。

女子聖学院中学校

算数

試験時間は 50 分、問題の構成は大問 5 題、配点は 100 点です。大問【1】は計算問題（独立した小問 8 問、配点 30 点）、大問【2】は一行問題（独立した小問 8 問、配点 32 点）、大問【3】は文章題（関連した小問 3 問、配点 12 点）、大問【4】・【5】は文章題（関連した小問 3 問程度、配点は 12 点または 14 点。「式や考え方」を書かせる問題があるほうが 14 点）となっています。大問【1】・【2】だけで配点が 62 点あるため、しっかり検算をして、確実に得点しましょう。また、大問【3】・【4】・【5】は、つるかめ算などの典型的問題、図形問題、時間に伴って変化する量を追う問題、推理などの応用問題です。それぞれの小問 1 は、どれも確実に解ける問題なので、必ず解答しましょう。「円周率を 3.142 とします」などの特別な指示に気をつけてください。大問【4】または【5】で、最後に「式や考え方」を書かせる問題があります。この問題では、途中までの考え方が合っていれば部分点があります。

国語

試験時間は 50 分、問題の構成は大問 3 題、配点は 100 点です。大問（一）は知識問題（小問 30 問、配点 30 点）で、漢字、ことば、文法に関する問題です。内容は漢字の読み書き、四字熟語、ことわざ、慣用句、対義語などの知識、呼応することば、ことばの見分け、修飾・被修飾などで、問題集を繰り返し学習した人が点数を取れるようにしています。次の大問（二）は小説（小問 17～18 問、配点 35 点目安）で、女子聖学院オリジナルの文章が使われることがあります。出版された作品から出題する場合は、第二次世界大戦後に発表されたものを使用します。せりふの並べ替え問題、文章全体からの○×問題、抜き出しの問題は例年出題しています。文学史や詩・短歌・俳句など、韻文の問題はありません。そして、大問（三）は論説文（小問 17～18 問、配点 35 点目安）です。ここでは、「書かれている内容を正確に読み取ること」を求めます。問題の傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体をていねいに読む訓練をしましょう。

理科

試験時間は 30 分、問題の構成は大問 4 題、配点は各 25 点の合計 100 点です。四つの大問【1】～【4】は生物・地学・物理・化学の各分野から 1 題ずつとなっており、各分野とも試験回ごとに一つまたは二つの単元から出題されます。

例年の各分野の出題傾向と対策のポイントは以下のとおりです。

【1】《生物分野》単元は「ヒトのからだ（消化器、循環器、感覚器）」「生態系と食物連鎖」「昆虫」「種子の発芽」が多くなっています。まずは基礎的な知識事項を覚え、用語を漢字で書けるようにすることが必要です。また、生物分野ではさまざまな事柄を、その役割やはたらきと結びつけて理解を深めることを心がけましょう。

【2】《地学分野》ほぼ毎年出題される「岩石」は、知識に特化した問題です。「どのような外見か」「どのようにしてできたか」「何からできているか」が知識を整理するうえでのポイントといえます。ほかに「地形を形づくるはたらき」ではさまざまな事柄の因果関係を考察する力、「四季の星座と星の動き」ではルールに従って計算する力を問います。

【3】《物理分野》「てこ・輪軸・滑車」が頻出です。まずはそれらの道具についての原理を理解し、運用できることが必要です。そのうえで、それらの道具を複数組み合わせた装置のなかで、力がどのように伝わっていくのかを追う力を求めています。ほかには「光」「音」「電気回路」「物体の運動」といった単元が取り上げられますが、いずれも問われるのは基本的な事柄です。
【4】《化学分野》出題頻度の高い単元として「水溶液の性質」があります。主な水溶液について「性質要素ごとになかま分けする作業」を通して、情報を整理する力を問います。そのほかには、「気体の発生」「ものの溶け方」に関する実験結果などの資料を受けての計算問題などの出題も多くなっています。
そのほか特記すべきこととしては、生物・化学分野では 20 字程度の記述式問題、物理・化学分野では資料からグラフをかく問題が出題されることがあります。

社会

試験時間は 30 分、大問は 4 題または 5 題で、配点は 100 点です。大問【1】・【2】は地理（配点 40 点）、大問【3】・【4】は歴史（配点 40 点）、大問【5】は公民（配点 20 点）となっています。大問【1】では都道府県名とその位置を問います。漢字で書けるようにしましょう。正答率は 70%なので、確実に得点できるようにしてください。大問【2】では気候・地形・産業、または世界の国々について問います。本校が指定する世界の国々30 か国の名前と位置は、必ず確認しておきましょう。次の大問【3】は、歴史に関する文章に基づく設問です。古代から近現代まで広い範囲から出題しますが、設問は基本的なもので、小学校の学習レベルを逸脱しません。時代名と本校が指定する 30 人の歴史上の人物名は漢字で書くのが原則です。大問【4】は、大問【3】が小問 10 問の場合に出題します。時代名、歴史上の主要人物と主な業績を覚えましょう。そして、大問【5】では、憲法の三原則（平和主義、国民主権、基本的人権の尊重）と国内政治（国会、内閣、裁判所）、国際政治（ユニセフ、ユネスコなど）を重視しています。憲法の基本条文の内容（第九条など）をまとめましょう。1947 年に当時の文部省が中学校 1 年生用の社会科の教科書として発行した『あたらしい憲法のはなし』などを読んでおくのもよいでしょう。時事的な知識そのものを答えとして求める出題はありませんが、問題文として最近の新聞記事を用いることがあります。

白百合学園中学校

算数
大問を 5 題出題します。例年どおり計算問題はありません。解答欄に「計算・やり方を書きなさい」とある問題では、考え方や計算過程を記入してください。採点の対象となります。

国語
長文の読解問題は、論理的文章 1 題、文学的文章 1 題の合計 2 題を出題します。設問は、選択式問題に加えて、本文の内容や登場人物の心情などをまとめる記述式問題もあります。また、漢字や語句の問題も出題します。記述式の設問では、設問に対応した答え方をすることや、論理的な文章でまとめることが求められます。

理科
物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題します。実験・観察など体験に基づく問題、思考力を問う問題、知識を確認する問題のほか、計算・記述問題もあります。レベルは標準的です。自分の得意な分野の問題から解き始め、正確に解答していくことがポイントとなります。

社会
地理・歴史・公民から出題します。3 分野のなかでは、地理と歴史の配点がやや高くなっています。重要事項はすべて漢字で解答できるようにしてください。時事問題や短い記述問題も毎年出題しています。記述には部分点があります。基本的な内容ですが、量が多いので速さと正確さが求められます。

玉川聖学院中等部

算数

計算問題・小問は正答率が高いので、ミスをしないように気をつけましょう。計算問題で時間を取られないように、リズムよく進めていくことが大切です。図形の問題は必ず出題します。問題文を読み取る力をつけ、過去問を使って練習を積んでおきましょう。途中の過程で部分点はありませんので、しっかりと確認する習慣をつけましょう。ただし、2〜3 問含まれる記述式の問題では、途中の求め方も採点対象となります。

国語

長文読解（約 60〜70 点）、言語事項（約 30〜40 点）の 2 題を出題します。長文読解では、読解力・記述力を問う設問を中心としています。「〜について説明しなさい。」「〜について自分の考えを書きなさい。」「〜にあたる一文の初めの 5 字を抜き出して答えなさい。」などという問いにふさわしい答え方をしてください。また、言語事項では、「ことばのきまり」（主語・述語の関係、ことばの呼応、修飾語、敬語の使い方など）と「漢字の読み書き」を必ず出題します。それ以外にも、「慣用句」「四字熟語」「類義語」「対義語」「同音・同訓異義語」「漢字の部首名」「文学史」などを学習しておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からの大問が計 4 題（各 25 点前後）です。分野ごとに、基本的な知識を問う問題が数問と、図やグラフの読み取り問題などが数問という構成です。実験の意味や現象の説明を理解しているかどうか、図やグラフを読み取る力、自分でかく力などを問う問題を出題します。表やグラフ、問題文中にある数値などから計算式を立てる練習をしておきましょう。

社会

小学校での学習内容をもとに、社会科の基本的な知識と理解を問う問題を出題します。地理的分野では、地図の読み取り、地形や気候、海流などの自然地理、日本各地の産業などについて問います。歴史的分野では、歴史の大きな流れと用語を正確に理解しているかを問います。公民的分野では、日本国憲法の特色、政治の仕組み、また国連の働きなどの国際社会、教科書に掲載されている日本とかかわりの強い国について問います。そのほか、3 分野の総合問題、統計資料の読み取り問題も出題します。

田園調布学園中等部

算数

基本的な問題と、思考力・表現力を重視した問題をバランスよく出題します。計算力、割合や比を利用する力、数量の変化を図やグラフから読み取る力、図形の性質を利用して面積・体積を求める力などを問う問題が中心です。

第1回～第3回は大問5題で、そのうち大問1は小問集合です。また、途中経過を書く問題は2～3題です。

2月1日午後入試（算数1教科入試）については、大問5題の出題は変わりません。2027年度入試では、大問1は計算問題（3問）と文章題（3問）の小問集合に変更します。また、途中経過を書く問題は1～2題です。式を書いても図を描いても構いません。それを見て部分点をつけます。

国語

文学的文章・説明的文章の2題を出題します。いずれも基本的な力（読解力・記述力・語彙力）が身についているかを測ります。字数指定がない記述問題は、解答用紙に罫線が引いてありますが、1行当たり20字程度を想定しています。採点に際しては、基準となる要素ごとに加点をし、部分点があります。漢字の読み書きを問う設問については、前年度から独立問題としています。とめ・はね・はらいが不明瞭なものや、字形がはなはだしく整っていないものは減点する場合がありますので、ていねいに書いてください。

理科

各回とも、物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題し、配点はほぼ均等です。小学校の理科の授業で扱う内容や身近な自然現象を題材に、知識だけではなく思考力を問う標準レベルの問題になるよう心がけています。観察や実験の過程を理解し、得られた結果について正しく考察する力、自分の考えを文章や図を使って表現する力を求めています。また、計算の過程を書く問題や記述問題などは配点が2～3点となっており、途中点を設けてきめ細かく採点します。ニュースや新聞などで取り上げられる環境問題などの科学的な内容について出題することもあるので、確認しておくとよいでしょう。

社会

テーマを設定して、地理・歴史・公民の各分野から出題する総合問題の形です。設問数や難度は、例年と大きく変わりません。設問は、リード文内の空欄補充や、下線を引いた部分に関するもので、小学校で学習する内容を踏まえています。2027年度も、受験生の学力を多様な観点で評価できるよう、記述やグラフ・統計の読み取りなど、思考力や表現力を測る問題を入れる予定です。40分の試験時間の配分に注意して臨んでください。

東京純心女子中学校

算数

塾のテキストや市販の問題集できちんと準備していれば、確実に得点できる問題が 6〜7 割を占めています。割合や比の問題、図形の面積・体積を求める問題は毎年出題します。やや面倒な計算問題もあるので、最後まで粘り強く計算して答えを出す習慣をつけてください。教科書では扱わないような新傾向の問題も 1 題出題します。受験生の「気づき」に期待しています。問題は易しい順に並んでいるので、解けるものからどんどん解いていきましょう。

国語

文学的文章と説明的文章が各 1 題です。文学的文章は登場人物の心理や状況を把握し、筆者の思いを読み取る問題が主で、文章表現上の特色や比喩表現の意味を問う問題も出題します。説明的文章に関しては、筆者の論理展開を正確に追う力があるかどうかを問う問題が主で、理由説明・内容把握の問題や、文と文、段落と段落の関係を問う接続詞の問題なども出題します。まとめる力を見るための語句の問題や、要点を大きくつかむ問題もあります。記述問題は全体で 3〜4 問程度で、各 30〜50 字前後です。

理科

①実験や観察の計画をどのように立てて調べたらよいか、②学習して得た知識をどれくらい応用（活用）して考えられるか、③身近な自然現象や日ごろのニュースに興味・関心をどれくらい持っているか、以上の三つを測ることのできる問題を出題します。毎回、「生物と環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野から出題し、選択問題や正誤問題のほか、現象などについて自分のことばで説明する問題などもあります。

社会

毎年 2〜3 題の構成で、3 分野と時事問題から均等に出題するよう心がけています。近年は選択肢から選ぶ設問が多くなっていますが、記述の対策もしっかりと行うこと。文章や資料を読み取ったうえで解答を求める問題が多いので、日ごろからしっかりと練習しておきましょう。

東京女学館中学校

算数

〈出題のポイント〉

「計算・図形、文章題などの基礎学力」と「いくつかの内容が融合された問題を解く問題解決能力」の有無を確認します。計算問題が 4 問、小問が 5 問前後、大問が 5 題となっており、図形に関する問題やグラフの読み取り問題は、すべての回で必ず出題しています。また、円周率は 3.14 を使って計算します。基本的な考え方を確認する問題が中心ですが、やや難しいものもあります。また、2 月 1 日午前の回と午後の回にて一部、記述問題を出題します。

〈学校からのアドバイス〉

当日の試験では時間配分に気をつけましょう。試験が始まったら、まずは大問 1 の計算問題 4 問、そして、大問 2 の小問集合 5 問に取り組み、確実に正解を得られるよう、本校の過去問を利用してよく練習に励んでおきましょう。大問 1 と 2 を解き終えたら、大問 3 から大問 7 の問題がそれぞれどのような内容か、目を通してください。問題の配列は必ずしも難度順ではないため、自分の解きやすいものから解くことをお勧めします。試験の途中でつまずいてしまったときには、次の問題に進む勇気を持ちましょう。

国語

〈出題のポイント〉

①文章内容の正確な読み取りができるか、②適切な表現での説明ができるか（理解したことを的確にまとめ、表現できるか）、③基礎的な国語知識があるか、を見たいと考えています。このうち①の文章内容の読み取りでは、「内容理解」（文のつながり、筆者の主張、文章の要旨を的確にとらえられるか）と、「心情理解」（登場人物の心情を的確に読み取れるか）の 2 点を見ます。また、③の基礎的な国語知識については、漢字（小学校 6 年修了程度）の意味を正しく理解し、書くことができるか、ことばのきまりや使い方を正しく理解しているかを見ます。大問 2 題（説明的文章と文学的文章を各 1 題）と、漢字（書き取り）10 問からなります。

〈学校からのアドバイス〉

上記を参考に、文章を正確に読み取ることを心がけてください。制限時間内に相当量の文章を読みこなすスピードも必要です。最後に、誤字や脱字は減点の対象となります。1 画ずつていねいに書き、終わったら必ず見直すことを心に留めて練習しておいてください。

理科

〈出題のポイント〉

「自然や科学的な事象に関する基礎知識」と、「実験・観察に対する論理的な思考力」があるかを確認します。大問は 3 題で、物理・化学・生物・地学の各分野よりバランスを考えて出題します。

〈学校からのアドバイス〉

理科の基本的な知識をきちんと身につけることが大切です。適語を書いたり、記号を選んだりする問題のほかに、文章記述、図・グラフの作成、計算などの問題があります。過去問を

参考にして、正確に計算したり、簡潔な文章を書いたりする練習をしてください。また、知識は丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを日ごろから考える習慣をつけましょう。初めて見る問題でも、問題文をよく読み、グラフや図が表すことをよく考えれば解けるはずです。

社会

〈出題のポイント〉

本校の社会科では、授業や体験学習を通して社会問題への関心を高め、社会的認識を深めるとともに、問題解決能力の育成をめざす学習を推進しようとしています。そこで、入学試験においては、①教科書レベルの基本的な事項をきちんと理解しているか、②それらの基本的な事項を利用して、社会的な問題を総合的に考える力をどれだけ身につけているか、③ふだんから世の中の出来事に関心を持っているか、の 3 点を見ます。それに沿って、地理的分野では「日本と世界の地理に関する基本的知識と地図や資料の読み取り能力」を、歴史的分野では「日本の歴史の流れと各時代の特色の基本的な理解」を、公民的分野では「日本国憲法や政治、社会の仕組み、国際関係などの基本的な理解」を確認します。

〈学校からのアドバイス〉

地理・歴史・公民分野の総合問題に対応できるようにしておきましょう。また、ふだんからニュースや新聞などを見て、時事問題にも関心を持ちましょう。資料の読み取り問題も出題されるので、日ごろから資料に触れて慣れておきましょう。

東洋英和女学院中学部

算数

計算（約 10%）、基本問題（約 20%）、面積・体積（約 20%）、グラフ（約 15%）、そのほかの文章題（約 35%）という比率で出題します。1 枚目は基本的な問題が多く、2 枚目は応用的な問題です。文章で説明を求める問題も出すことがあります。解答用紙と問題用紙は一体で、途中経過も見ます。解答欄外の式や計算も書いたままにしておいてください。

国語

ジャンルを問わず、文章問題を中心として出題しています。語彙力を試す問題、人物の心情を問う問題、筆者の主張を把握する問題のほか、自分の経験や具体的な出来事、自分が想像したことなどをわかりやすく説明する記述問題もあります。それらは長文の記述になることも多いので、日ごろから自分や身の回りのことをことばにして書き表す練習をしておくとよいでしょう。

理科

物理（約 25%）、化学（約 25%）、生物（約 30%）、地学（約 20%）の 4 分野すべてから、次のような力を見る出題をします。①基礎知識を正しく用いる力、②グラフ・表・図などのデータを読み取る力、③筋道を立てて考え、説明する力、④実験問題で実験の設定を示した説明文の内容をつかむ読解力。身近な科学的現象に関心を持つよう心がけ、教科書に載っている実験に積極的に取り組んでください。

社会

地理（約 37～38%）は、日本の地形・気候・産業を中心に出題します。歴史（約 37～38%）は、各時代の特徴、人物・出来事とそのつながりについて出題します。公民（約 25%）では、時事を含めた社会の仕組みなどについて出題します。また、各分野に関する時事問題もあります。すべての分野について、テーマに基づいて出題しています。問題文をよく読み、何が問われているか注意しながら解き進めましょう。地名・人名などの用語は原則として漢字で書いてください。ひらがなで書いた場合や誤字があった場合は減点することがあります。自分の考えを正確に表現できるように論述の練習も行いましょう。

豊島岡女子学園中学校

算数

小問で数えて 18 問程度を出す予定です。内容・範囲ともに、偏りのない出題を心がけています。計算練習をしっかりすることが大切です。標準問題に素早く対応する練習をしておくとよいでしょう。

国語

大問はおおむね 2 題で、小説・随筆・評論などから、偏りなく出題します。基本的な漢字やことばの意味も問います。記述問題では問われていることに的確に答えてください。文末処理や誤字に注意しましょう。

理科

大問は 4 題程度で、物理・化学・生物・地学から出題予定です。知識・計算のほか、データ分析、文章の読み取りなどを出題する予定です。

社会

大問 3 題程度で問題数は昨年と変わりありません。地理・歴史・公民から偏りなく出題します。時事問題もあり、20〜30 字程度の記述問題を出題することも検討しています。地名・人物名など、漢字で書くべきところは漢字で答えましょう。

富士見中学校

算数

1は計算力など基本的な学力を見るための問題で、小問ごとに分野が偏らないように出題します。2は〔A〕と〔B〕の2種類の文章題で、分量は小問より多く、大問より少ない構成です。3と4では、文章を読み取る力、グラフや表を読み取る力、平面や空間を把握する力などの「考える力」を測る問題を出題します。単に公式や解法を当てはめるだけでは解けず、その場で想像したり、規則性を見つけたり、効率のよい処理方法を工夫したりする力が求められる問題もあります。また、記述を含む問題も出題されます。

＜算数1教科入試＞

この入試では、少し長めの文章から必要な事柄を読み取り、論理的に組み立てて結論を出す問題、データや表を読み取って考える問題、実際にグラフや図を描く問題などが出題されます。大問は3題で、時間は60分です。分野に偏りはなく、問題文を読み、計算や図・表・グラフを活用する力が必要な問題が中心です。一見、午前の4教科入試の傾向とは異なるように見えますが、基本的な解き方や計算力を組み合わせ、論理的に考えることで答えにたどり着けるという点では共通しています。ふだんから、答えだけでなく、答えに至るまでの考え方を重視しましょう。

国語

1は漢字問題、2は論理的文章、3は文学的文章で、計3題を出題します。本校の国語において求められている能力・姿勢は次のとおりです。

①読解した内容を適切な表現で短い文章にまとめる力
②漢字などの知識を単に暗記するのではなく、その成り立ちや意味が与えられてきた歴史を考え、言語表現に使用する力
③日常生活を通じて、言語に対して鋭い感覚を持ち、適切な日本語の使用を心がける姿勢
④ことばの構造に問題意識を持ち、なぜこのような表現になるのかを探究する姿勢

理科

物理・化学・生物・地学のそれぞれの分野から1題ずつ、計4題の大問を出題します。科学的知識やその理解・応用力だけでなく、探究的な活動ができる力を測りたいと考えています。探究的な活動とは、①疑問を整理し仮説にする、②仮説を証明する実験・観察方法を考え、実行する、③結果を考察し仮説の正誤を判断する、という一連の活動のことです。そのためには、実験装置やその操作の理解、表やグラフを作成し読み取る力、論理的に考察する力が必要になります。

社会

大問は2題で、いずれも地理・歴史・公民の融合問題です。これは、分野の枠にとらわれずに考えてほしいという思いがあるからです。地図・図表・写真・グラフの読み取り問題は必ず出題します。また、説明を求める記述式の問題も数問あります。求められている内

容について文章できちんと解答すること、主語・述語をはっきりさせて文章をまとめることが必要です。漢字指定の問題はその旨を明記します。漢字指定の問題は多くなっています。地理的分野では、常に地図帳を手元に置いて学習してください。歴史的分野では、各時代の代表的な人物や事項を関連づけて学習しておきましょう。単なる暗記や一問一答式の学習にとどまらず、「なぜ？」「どうして？」と理由を考える姿勢が必要です。公民分野は、日々の生活と学習内容をつなげられるように意識しましょう。

富士見丘中学校

算数

算数の問題は、基本問題を全体の 6 割程度出題します。基本問題は、分数・小数を含めた四則演算、食塩水、最大公約数・最小公倍数、割合、比、図形の面積・体積、速さ・時間・道のりなどからの出題で、つるかめ算のような特殊算での出題はせず、基本的な解法で解ける問題です。特に思考力型問題は、きちんと文章を読むことで、解法が得られる問題です。今年度も、ていねいな誘導があるので、日ごろの学習から問題文をよく読み、書かれている事柄をしっかりと理解しようと意識することが、入試の対策にもつながります。また、問題によっては、途中式が合っていれば部分点を与えているので、解答用紙の計算欄には、式などをしっかり書くようにしてください。

国語

大問は、第 1 問が評論文（50 点）、第 2 問が小説（50 点）となります。第 1 問には漢字の読み書き、第 2 問には語句の意味や使い方を問う知識問題が含まれます。試験直前期に、漢字や重要語句の復習をお勧めします。また、本校独自の「思考力問題」を除き、読解問題はすべて選択式となります。選択式の問題にも十分慣れておきましょう。「思考力問題」については、本文の内容の具体例となるエピソードを、身の回りや自身の体験のなかから探すという設問が頻出です。日ごろから文章の内容を自身の生活と結び付けて考える癖をつけておくとよいでしょう。

理科

例年どおり、物理・化学・生物・地学の各分野から基礎知識の定着を見る問題と、環境・自然・生命科学など科学的事象全般に関する理解や思考力を見る問題とを出題します。教科書に載っている図表や、その基となるデータ、科学的事象に関する時事ニュースなどにも、目を向けることが大切です。

社会

地理・歴史・公民・総合の 4 題です。「総合問題」では、今日的視点から話題性に富んだ時事問題を出題しますが、設問レベルは基礎的です。新聞やニュースを日ごろからチェックすることを心がけてください。また、地理と歴史には思考力を問う問題があるので、自分の考えを論理的に説明できるようにしましょう。

英語

筆記試験を実施せず、取得した英検®などの英語資格を、次の割合基準で得点換算します。英検®4 級は 60%、3 級（CEFR A1）は 70%、準 2 級（CEFR A2）は 80%、準 2 級プラスは 85%、2 級（CEFR B1）は 90%、2 級 A（CSE スコア 2150 点以上での合格）は 95%、準 1 級以上は（CEFR B2 以上）100%です。

※英語の取り出し授業がある「英語特別コースインター」および「英語特別コース B」を希望する場合は、ネイティブ教員による英語面接（5 分程度）が課されます。

雙葉中学校

算数
全問が記述式です。問題文を正しく読み取り、筋道を立てて考え、答えを導き出す力を見ます。日ごろから途中の式・計算・図などをていねいに書くように心がけるとよいでしょう。

国語
すべての出題を通じて、読解力や語彙力、表現力などを見ます。記述式の答えを求める問題もかなりあります。

理科
物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題し、実験・観察に積極的に参加しているか、与えられた条件から法則を見つけ、応用する力があるかを見ます。そのための題材を教科書以外から取り上げる場合もあります。

社会
時事問題も出題するので、日ごろから家族間で話題に取り上げてください。地理・歴史・公民のどの分野からも出題しますが、教科書の本文に添えられている地図・グラフ・写真などから読み取れる事柄も、本文と絡めて理解しておくとよいでしょう。

普連土学園中学校

算数

＜1 日午前 4 科・4 日午前 4 科＞

定型的なパターン問題だけでなく、基本からきちんと考える力があるかを試す問題も出題しています。計算問題、定型問題に続き、会話形式の問題を 1 題出題します。会話形式の問題とは、途中にヒントとなるいくつかの小問を置き、それを利用して次の問題を考えていくというストーリー性のあるものです。途中過程でも部分点を与えるので、途中式など考え方を解答用紙に記すようにしましょう。

＜1 日午後算数＞

50 問×2 点＝100 点という問題構成で、いわゆる一行文章題と計算問題のみの出題となります。難度は標準レベルが中心ですが、試験時間が 50 分なので、速く正確に解くことが必要です。ほかの入試回と異なり、解答用紙には途中式を書く欄がなく、解答のみを記すタイプになります。

＜2 日午後 2 科＞

計算問題の後、1 日午前 4 科、4 日午前 4 科よりやや難度の高い定型問題を複数出題します。会話形式の問題は出題しません。採点方法は 1 日午前 4 科、4 日午前 4 科と同様なので、途中式など考え方を解答用紙に記すようにしましょう。

国語

＜1 日午前 4 科・4 日午前 4 科＞

小説と説明文などの読解を通して、基礎的な国語の力を見ます。小説は登場人物の心情の変化や成長が、説明文は筆者の主張が、それぞれ読み取れているかをポイントに出題します。また、漢字は教育漢字が中心で、ことわざ・慣用句・文法などのことばの問題もあります。解答形式は記述が中心です。

＜2 日午後 2 科＞

出題内容は 1 日午前 4 科、4 日午前 4 科と同様ですが、解答形式は記述よりも選択・抜き出しが中心となります。

理科

小学校の教科書を中心に、さらに発展した内容について、物理・化学・生物・地学の各分野からほぼ均等に出題します。グラフや表の読み取り問題や、1～2 問ですが記述での解答を求める思考力を問う問題も必ず出題します。

社会

小学校で学習する内容をもとに出題しますが、さらに発展した事項も含まれます。地理・歴史・公民の各分野の割合はほぼ均等ですが、問題文は 3 分野が融合した形式になります。時事問題や資料の読み取りを出すこともあります。また、記述での解答を求める問題もあるので、語句の意味や歴史的事件の意義を理解することも大切です。

帰国生入試

1 日午前の帰国生入試の問題は、1 日午前 4 科入試（一般入試）の国語・算数と同一です。また、4 日午前の帰国生入試の問題は、4 日午前 4 科入試（一般入試）の国語・算数と同一です。1 日午前・4 日午前ともに作文を課しますが、合否に直接影響はありません。

三輪田学園中学校

算数

最初に分数や小数の混じった計算や､四則計算の順序を確認するための問題を3問出題し、次に、さまざまな分野から標準的な内容の問題を 6 問出題します。応用問題は、グラフや表を使った問題や立体・平面図形の問題を 3 問出題しますが、これらは途中式を書いてもらいます。問題文の意味を正確に読み取る力を持っているかどうかが試されます。

国語

長文 1～2 題を出題します。総文字数 8000 字以上です。内容読解の問題は、選択・抜き出し・記述のバランスを考慮します。部分的な読み取りのほかに、全体の内容を問うものもあります。接続詞や副詞などの空所補充問題は頻出です。語句の意味や文法などの知識問題は、原則として本文に即した形式になります。漢字の読み書きは 15 問程度です。

理科

4 分野からまんべんなく出題します。身の回りの自然現象、観察および実験が中心になる予定です。自然観察から得られる考察内容を文章で説明する問題や、実験結果から得られる定量的な内容を問う計算問題は頻出です。ニュースになった科学的な事象に関する内容を出題することもあります。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。基本的知識を問う問題では、都道府県名や人物名などは漢字で答えましょう。グラフ・資料の読み取りや作成、1～2 行で答える論述問題もよくあります。答えとして必要な内容を的確に記述する力が求められます。ニュースなどをチェックして、社会の動きも知っておきましょう。

山脇学園中学校

算数

＜一般（4 科・2 科）入試＞

基礎的知識と応用力を問う問題を、さまざまな分野からまんべんなく出題します。応用力を問う問題には、問題文の読解力や、解法の流れを組み立てて解答する思考力を問うものもあります。前年度と同様に、大問1は基本～標準レベルで、答えのみを書く形式です。大問2～4は標準～応用レベルで、「求め方」を記述する問いも含めます。正解までたどり着けなくても、考え方が正しければ加点しています。ふだんから考え方を式や図、ことばで表現することを心がけてください。

＜算数（1 科）入試＞

偏りのない基礎知識と計算力があるか、問題文から的確に必要な情報を読み取り、解き進める力があるかを問います。20～25 問のうち、計算問題は 2～4 問で、ほかはすべて文章題・図形問題です。2027 年度入試より、すべての問題が答えのみを問う形式になります。

国語

＜一般（4 科・2 科）入試＞

文章読解問題の配点が全体の約 80%を占めます。説明的文章・物語文を出題します。内容を論理的に読み取る力、文脈に合わせてことばを使い分ける力を身につけてください。知識問題は幅広い分野から出題していますが、なかでも漢字・語句の問題は、毎年一定の割合を占めています。大問3の総合問題においては、短い説明的文章を読んで自分の考えをまとめる意見論述型の設問があります。出題の形式については、過去問題を参考にしてください。

＜国語（1 科）入試＞

日本語の運用能力、論理的思考力のベースとなる読解力や表現力を問うために、読解問題を 2 題出題します。文章を読んで書き手の意図を論理的に読み取る力や、読み取った内容を踏まえて記述する問題を出題します。記述字数が 80 字程度と、長めのものも含みます。文章題のなかで、漢字や語句などの知識を問う問題も出題しますが、全体の 10%程度です。

理科

理科の学力を総合的に測るため、物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。基本的な知識・理解を問う問題では、中学受験で身につけておきたい知識を重視しています。大問1・2では基本的な知識・理解や計算力を確認します。大問3・4では文章や資料、実験結果などから必要な情報を読み取り、身につけた知識を活用して筋道を立てて考える力を問います。大問3・4では記述問題も多く出題し、配点を高くしています。全体を通して、身近な現象や日常生活とのつながりを大切にし、理科への興味・関心を引き出すとともに、科学的に考える力を問います。

社会

地理・歴史・公民分野からまんべんなく出題します。各分野の基礎知識と、その活用力を

問う内容になります。具体的には、地図・図表・グラフ・写真・資料を読み取る問題や、1 行程度の文で述べる論述形式の問題、時事問題などを出題しています。過去問を活用し、出題形式を確認するとともに、制限時間内で解き終わるように練習を繰り返してください。

理数探究

【算数】大問 2 題構成です。初めて見る問題に対して、柔軟に算数的な思考力を発揮できる力を求めます。公式に入れて解決するような問題は出題しません。工夫して計算する問題や演算規則を理解して計算する問題、場合の数や規則性、推理などのような思考力を測る問題を出題する予定です。ふだんからさまざまな問題を解いたときに、「なぜそう考えたのか」をきちんとことばで説明できるところまで学習を深めてください。

【理科】「生活の中の科学」をテーマに、物理・化学・生物・地学の知識を活用して考える総合問題として、大問 2 題を出題します。文章やグラフ、表などから必要な情報を読み取り、分析する力や、根拠をもとに筋道を立てて考える力を重視しています。自分の考えを記述する問題も出題します。大問 1 ・ 2 に難易度の差は設けず、いずれも 4 科入試の理科の大問 4 と同程度の問題になっています。

立教女学院中学校

算数

計算力・思考力を問う問題を出題しています。計算は正確に、かつ速くできるよう練習してください。どうしたらより簡単に解くことができるかを常に考えながら練習するとよいでしょう。また、文章題では、何が問われているのかを落ち着いて読み取ってください。日ごろから、単なるテクニックではなく、なぜそう解けばよいのか、なぜその式が出てくるのかなどを本当の意味で理解しながら解くことを心がけてください。算数では、真の考える力を求めています。コンパス・三角定規を必要とする問題は出題しません。解答欄は、答えのみを記入するようになっているので、転記ミスには注意してください。途中点はありません。

国語

出題する文章の種類は、説明文と物語文の 2 題です。論理的な読解力と登場人物の細やかな心情を読み取る力を期待しています。そして、それらを表現する記述力を特に重視しています。漢字は、小学校で学習する範囲からの出題です。そのほか、慣用句・ことばの意味・基本的な文法事項などの知識を要する問題を出す場合もあります。

理科

単に知識を問うだけではなく、論理的な思考力があるか、科学的な考え方ができているかも見ます。必要な情報を問題文中に織り込んでいることも多く、知識量の不足だけで問題が解けないということがないように工夫をしています。日ごろから、理科に関するニュースや身近に起こる現象に興味を持って、「なぜそうなるのか」「このことからわかることは何か」を意識し、小学校で学習した内容と結びつけて考えることで、理解を深めてほしいと思います。

社会

小学校の基礎的な知識を確実に身につけることが大切です。基本的な地名や歴史上の人物名は、小学校の学習漢字でなくても、漢字で読み書きできるようにしてください。一つひとつの知識がつながりを持ったものであることも理解しましょう。社会の出来事に目を向けることも大切です。日本と関連する世界の事柄や、新聞・テレビなどで話題になった事柄に関心を持ちましょう。

和洋九段女子中学校

2027 年度の受験方法は、得意科目入試（2 科・4 科型・PBL 型）に加えて、英語入試、適性検査入試、九段適 1 型、SSS 特待入試、基礎力入試（国・算）があります。基礎力入試以外は特待選抜も行いますが、今年度新設した SSS 特待入試は、充実した特待生制度を利用できる入試です。

算数

基礎的な力を見る問題になっています。大問1は計算問題です。通常 6 問ほど出題していますが、1 問 5 点、計 30 点と配点が高くなっています。特に点差がつく問題は、逆算と単位換算です。この二つのうち一つはしっかり身につけましょう。
大問3～5のうち 1 題で、答えに至る考え方を図や数、ことばなどを使い、自由に書いてもらうような「自分の考え方を表現してもらう問題」を出題します。

国語

長文読解は、小説などの文学的作品と、説明文や論説文の 2 種類があります。漢字の書き取りは「とめ・はね・はらい」までしっかりと書くように心がけてください。
【新しいかたちの問題】大問1の最後に、文中のことばを用いたり、抜き出したりするものではなく、自分の考えや経験を、テーマや本文の内容に合わせて自由に書いてもらうような問題を出題します。採点は、①設問の条件を満たしていること（用いることばなど）、②具体的であること（「よいと思う」だけでなく「どうよいのか」まで書いてあること）の 2 点を基準に行います。

理科

【4 科目入試（50 点満点）】物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題しています。例年と同様、基本的な内容が中心です。選択式の小問が 1 問 3 点×8 題と配点が高くなっています。ここでしっかり得点してください。
【2 科目入試（100 点満点）】物理・化学・生物・地学の各分野から大問を 1 題ずつ出題します。応用的な内容もあり、記述や計算問題が 4 科目入試より多くなっています。
【各入試共通】教科書の内容を理解したうえで、用語を暗記してください。問題文や図表に挙げられた条件と、これまで学んできた知識や考え方を結びつけて、論理的に答えを導き出せるかを問います。

社会

【4 科目入試（50 点満点）】地理・歴史・公民の各分野からバランスよく出題します。基本的な問題に重点を置くので、過去問にしっかり取り組んでください。
【2 科目入試（100 点満点）】各分野の基本的な問題と、資料解釈や簡単なデータ処理をはじめとする応用問題を出題します。
【各入試共通】憲法第 9 条をはじめとした平和に関する問題、気温と降水量のグラフの読

み取り問題、歴史的事項の順番の並べ替え問題などが頻出です。発展問題として新聞記事を用いた問題（記述型あるいは選択肢型）も出題します。

英語

筆記試験と面接試験（英語スピーキング）の 2 部構成で実施します。1 時間目の筆記試験は英語検定 5 級～3 級の一次試験程度の難度で、選択式・記述式の問題を通して、リスニング・文法・リーディング・ライティングの 4 技能を総合的に評価します。

2 時間目の面接試験は英語検定 5 級～4 級程度の難度で、入退室を含め約 10 分間実施します。自由会話とテーマに沿った会話を通して、英語でコミュニケーションを図る力を評価します。評価はネイティブスピーカーと日本人の試験官が担当し、流暢さ・発音・文法・内容・態度の五つの観点から総合的に行います。